

平成21年度香川県麦づくり推進研修会 資料

香川県水田農業振興協議会

平成21年度香川県麦づくり推進研修会 次第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 研修内容

- (1) 「平成21年播き麦生産振興に向けた取組方針について」
(J A香川県 営農部農産課 課長 吉本 康)
- (2) 「水田フル活用による麦作拡大に向けた支援事業について」
(香川県 農政水産部農業生産流通課 課長補佐 真鍋 雄二)
- (3) 「平成21年播き香川県麦作拡大コンクールについて」
(J A香川県 営農部農産課 考査役 平田 雅規)
- (4) 「麦の栽培技術について」
(香川県 農政水産部農業経営課 主席専門指導員 大山 興央)
- (5) 講演「実需者からの県産麦への要望について」
(講師：株式会社 高畑精麦代表取締役社長 高畑 光宏 氏)

4. 質疑応答

5. 閉 会

平成21年度香川県麦づくり推進研修会 開催要領

1. 目的

当県の麦については実需者から引き続き高く評価されているものの、需要に応じた生産量を確保できていないことから、関係機関が一体となって麦生産を推進してきたところである。

また、国においては平成21年度を「水田フル活用元年」と位置付け、食料自給力の向上に資する麦等の増産を図る施策を実施している。

そこで、これを麦作面積を拡大して農業経営の一層の発展を図る絶好の機会と捉え、県内の麦生産者等を対象に、栽培技術や生産者への要望等について実需者から情報提供を行い、作付拡大・品質向上を図ることを目的として研修会を開催する。

2. 主催 香川県水田農業振興協議会

共催 香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合

3. 日時・場所 平成21年7月10日(金) 13:30~16:00 丸亀市綾歌総合文化会館「アイレックス」大ホール (住所:丸亀市綾歌町栗熊西1680 Tel:0877-86-6800)

4. 研修内容

- 13:30 開会
- 13:40 「平成21年播き麦生産振興に向けた取組方針について」
(JA香川県 営農部農産課 課長 吉本 康)
- 13:55 「水田フル活用による麦作拡大に向けた支援事業について」
(香川県 農政水産部農業生産流通課 課長補佐 真鍋 雄二)
- 14:05 「平成21年播き香川県麦作拡大コンクールについて」
(JA香川県 営農部農産課 考査役 平田 雅規)
- 14:10 「麦の栽培技術について」
(香川県 農政水産部農業経営課 主席専門指導員 大山 興央)
- 14:40 質疑応答
- 14:50 <休憩>
- 15:00 講演「実需者からの県産麦への要望について」
(講師:株式会社 高畑精麦代表取締役社長 高畑 光宏 氏)
- 15:40 質疑応答
- 16:00 閉会

5. 参集範囲

県内麦生産者・団体、県内実需者団体、各地域水田農業推進協議会、市町、香川県農業共済組合連合会、農業共済組合、香川農政事務所、香川県農業会議、農業委員会、香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合、香川豊南農業協同組合

目 次

「平成21年播き麦生産振興に向けた取組方針について」・・・・・・・・・・ 1

「平成21年播き香川県麦作拡大コンクールについて」・・・・・・・・・・ 6

メモ欄・・ 8

平成21年播き麦生産振興に向けた取組方針について

香川県農業協同組合

1. 平成20年産の受渡状況

6月末日現在の2麦合せた受渡状況は、3,405トンで、20年産契約数量が前年産より増えた(+1,520トン)にもかかわらず、受渡実績で前年産を146トン下回り、受渡進捗でも40.7%（前年比▲11.1ポイント）と、前年度を下回っている。

小麦については、昨年4月からの外国産小麦価格の高騰により一時的に国内産使用に追い風が吹いたが、一転して本年4月から急落したことから今後の販売への影響が大きいと思われる。

なお、はだか麦については、急速な生産量の増加が期待できないことから国産使用用途を限定しつつ計画的な使用に終始しているものと考えられる。

(表1) 平成20年産民間流通麦の販売状況(6月末)

(単位:トン、%)

麦種	契約数量 ①	受渡実績 ②	受渡進捗 ③=②/①	前年販売 実績 ④	前年同期 進捗 ⑤	②-④	③-⑤
さぬきの夢2000	5,752.5	2,086.4	36.3%	1,784.3	38.8%	+302.1	▲2.5
イチバンボシ	2,618.6	1,318.3	50.3%	1,766.4	78.4%	▲448.1	▲28.1
2麦合計	8,371.1	3,404.7	40.7%	3,550.7	51.8%	▲146.0	▲11.1

(注) ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

2. 平成21年産の需給と作柄状況

(1) 需給情勢について

(表2) 平成21年産の販売予定数量と購入希望数量について (単位: トン)

麦種	21年産		生産不足 ②-①	対応の方向
	希望購入数量 ①	販売予定数量 ②		
さぬきの夢2000	6,709	(3,100)	(▲3,609)	19~20年産持越在庫で対応可能 用途先の絞込みや国内外産大麦へシフト
イチバンボシ	7,676	(1,400)	(▲6,276)	
計	14,385	(4,500)	(▲9,885)	

① 「さぬきの夢2000」

21年産の作付面積減少と作柄不良による生産量減少は、本来、需給の逼迫を招くことが想定される場所であるが、外国産小麦の国際相場の急落と折からの景気低迷による低価格志向から、国内産小麦の販売環境に逆風が吹き、販売に急ブレーキをかけていると思われる。

製粉業界では県外への販路拡大や用途を超えた新たな分野開拓をも視野に積極的な動きを開始している。

② 「イチバンボシ」

外国産で賄えず、国内産の生産拡大に期待する以外に方策は無く、実需者団体独自で資金造成を図り作付拡大支援事業を21~23年産まで実施することを決定している。21年産国内産はだか麦の価格高騰(前年比139%)は、業界再編成やはだか麦からの撤退にも発展することが想定される。

(2) 21年産麦の作柄状況

播種前からの断続的な降雨により、湿害による根痛みや1月下旬~2月上旬における長雨により分けつが抑制され、草丈は低く、茎数も少なく穂長も短いほ場が目立ち、基準単収をかなり下回るものと思われる。

なお、赤かび病やうどん粉病など病害虫の発生は少ないが、雑草防除ができていないほ場が多く見受けられ、抵抗性雑草による翌年発生が危惧される。

(表3) 平成21年産麦の契約と集荷状況 (単位: ha、トン)

年産	麦種	契約時		実績*		数量比	1等比率
		面積	契約数量	面積	集荷数量		
21	さぬきの夢2000	1,550	5,700	1,482	(3,100)	(54.4%)	(80%)
	イチバンボシ	650	2,400	642	(1,400)	(58.3%)	(90%)
	計	2,200	8,100	2,123	(4,500)	(55.6%)	(83%)
20	さぬきの夢2000	1,400	4,900	1,544	5,752	117.4%	59.0%
	イチバンボシ	700	2,450	640	2,619	106.9%	64.4%
	計	2,100	7,350	2,184	8,371	113.9%	60.7%

*面積は、農業共済引受面積である。

*21年産予想単収は、イチバンボシ220kg/10a、さぬきの夢2000:210kg/10aとなっている。

3. 最近の麦をめぐる情勢

(1) 国際穀物相場

平成20年2月の史上最高値（シカゴ相場（小麦）、\$12.8/ブッシェル）をピークに大幅に下落し、現在は、\$5/ブッシェル前後で推移している。*1ブッシェル=27.2kg

(2) 輸入麦政府売渡ルール検討会の状況

国際穀物相場の下落により、次期輸入麦政府売渡価格（平成21年10月期）は、さらなる大幅な引下げが想定される。

(3) 今後想定される外麦と民間流通麦の相対関係

10月以降に輸入麦政府売渡価格が大幅引下げられた場合、平成21年産民間流通麦の価格は、輸入麦政府売渡価格より高くなり平成21年産麦の円滑な流通に支障をきたす。

(4) 平成22年産の民間流通麦の仕組みの検討課題

- ・入札取引における値幅制限（現行±7%）の拡大
- ・播種前契約の見直し（播種前契約のリスク回避から一部現物取引の導入）

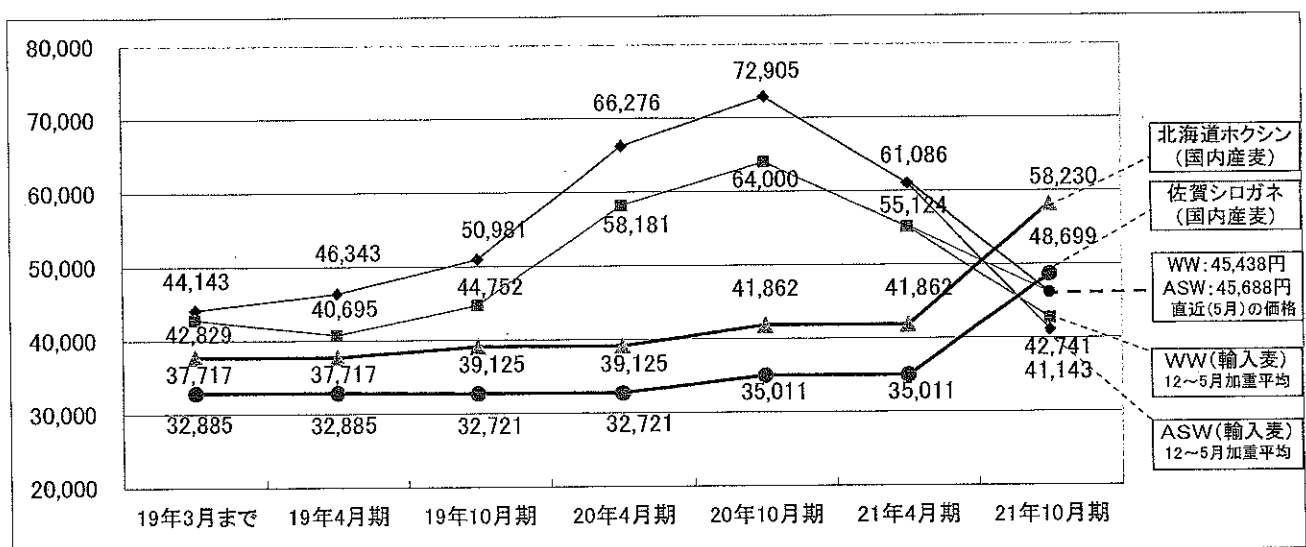
(表4) 平成21年産民間流通麦の入札結果 (単位：円/トン (税抜))

麦種	基準価格 (20年産) ①	基準価格 (修正後①×1.3) ②	入札価格 ③	基準比 ③÷②	前年比 ③÷①
さぬきの夢2000 (全国小麦平均価格)	52,909 (41,043)	68,782 (55,356)	68,782 (57,033)	100.0 (106.9)	130.0 (139.0)
イチバンボシ (全国はだか麦平均価格)	42,592 (40,072)	55,370 (52,094)	59,245 (55,740)	107.0 (107.0)	139.1 (139.1)

(注)：基準価格は、外国産麦の価格高騰を受け、平成21年産麦の入札に際し国内産麦の居所修正が行われた（20年産価格より30%引上げ）。

○輸入麦の政府売渡価格と国内産麦の価格の状況

(単位：円/t)



注. 21年10月期のASW（輸入麦）およびWW（輸入麦）の政府売渡価格は、平成20年12月～平成21年5月の政府買付け価格をもとにマークアップおよび港湾諸経費（推定）を加算して試算

4. 平成22年産の麦作振興について

水田経営所得安定対策（旧品目横断的経営安定対策）実施後は、一定面積を確保するなか、入札価格や収量性など生産者手取額の優位性から、はだか麦から小麦へ麦種転換が行われてきた。

こうした背景から、「さぬきの夢2000」については、国際小麦相場の急落の影響から需給緩和状態となり、基本的には現状面積を維持することとする。今後は、製麺適性に優れた後継品種への円滑な作付転換を図りつつ、ブランド化を進めて生産計画に即した作付拡大を行うこととする。

一方、「イチバンボシ」については、現在、深刻な困窮状態にあり、近年、作付面積が減少したうえに作柄が悪く、実需者から強く生産拡大を求められている。「イチバンボシ」は、全国に誇れる香川県のブランド産品であり現需給環境下で円滑な販売が期待できること、また、播種や収穫作業の分散による規模拡大が可能となることから「イチバンボシ」の作付拡大を中心とした麦作振興を図ることとする。

なお、外国産小麦価格の急落により「さぬきの夢2000」とはだか麦「イチバンボシ」との価格差は解消されることも想定される。

(表5) 今後の生産計画のイメージ

(単位：ha)

麦種	平成21年播き	平成22年播き	平成23年播き
さぬきの夢2000	1,750	1,800	2,500
イチバンボシ	1,150	1,300	1,300
計	2,900	3,100	3,800

5. 平成21年播き麦の作付拡大目標面積

(表6) 経営体別の目標面積

(単位: ha)

	経営体	H21面積①	H22目標面積②			作付拡大面積 ②-①
			小麦	はだか麦	計②	
大川	認定農業者		98	26	124	
	集落営農		130	35	165	
	1支店1農場					
	(計)	227	228	61	289	62
中央	認定農業者		378	80	458	
	集落営農		70	14	84	
	1支店1農場		262	54	316	
	(計)	686	710	148	858	172
綾坂	認定農業者		82	62	144	
	集落営農		30	24	54	
	1支店1農場		145	109	254	
	(計)	308	257	195	452	144
仲多度	認定農業者		70	120	190	
	集落営農		18	31	49	
	1支店1農場		279	484	763	
	(計)	724	367	635	1,002	278
三豊	認定農業者		45	27	72	
	集落営農		5	4	9	
	1支店1農場		138	80	218	
	(計)	179	187	112	299	120
県計	認定農業者		673	315	988	
	集落営農		253	108	361	
	1支店1農場		824	727	1,551	
	(県計)	2,123	1,750	1,150	2,900	777

6. 今後の麦作推進スケジュール(予定)

- 7月 ・地域麦作推進研修会の開催
・21年播き麦の出荷契約取り纏め(7月末期限)
- 8月 ・民間流通麦連絡協議会(全国)・・・22年産麦の取引ルール決定
- 9月 ・販売予定・購入数量取り纏め
- 10月 ・民間流通麦地方連絡協議会の開催・・・実需者と生産者団体で需給調整
・22年産民間流通麦入札・・・22年産麦の価格決定
・地域栽培講習会の開催
- 11月 ・播種開始
- 12月 ・相対契約締結完了・・・入札以外の数量(相対)契約

平成21年播き香川県麦作拡大コンクール実施要領（案）

第1 目的

麦類は本県における土地利用型作物の基幹作物であり、実需者から生産を強く求められていることから、需要に応じた速やかな作付拡大が必要である。

そこで、平成21年播き麦について、香川県麦作拡大コンクールを開催し、麦類の作付面積を拡大することで、本県を麦類の産地として再度復興するとともに、本県土地利用型農業の発展に寄与した担い手を表彰し、その成績を広く紹介することによって、本県麦作の更なる発展を図るものとする。

第2 主催等

主催 香川県農業協同組合

後援 香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県水田農業振興協議会

第3 参加資格

- (1) 香川県内で小麦「さぬきの夢2000」若しくはその後継品種（候補を含む）又ははだか麦「イチバンボン」の生産を行う者であること。
- (2) 水田経営所得安定対策に加入している経営体であること。
- (3) 麦の作付面積（農業共済引受面積）が21年産よりも拡大していること。
ただし、個人の部では拡大面積1ha以上、生産集団の部および1支店1農場の部では拡大面積2ha以上とする。
- (4) 地域の平均単収の概ね平均以上の生産を確保していること。
- (5) 生産振興方針に基づく麦種・品種を作付していること。

第4 参加者の区分

参加者は次の3部に区分し、審査することとする。

- (1) 個人の部
- (2) 生産集団の部
- (3) 1支店1農場の部（香川県農業協同組合が支援する1支店1農場構想に基づく組織経営体）
なお、1戸1法人は個人とし、(3)に含まれない法人及び団体は生産集団とする。

第5 参加者の推薦及び申し込み

香川県農業協同組合の各地区本部は、地域の優れた生産者について所轄地域農業改良普及センターと協議のうえ、推薦書により申し込む。

第6 審査

- (1) 入賞者の決定は、審査委員会に諮り、公正かつ適正に行うこととする。
- (2) 審査委員会は香川県、中央会、香川県農業協同組合をもって構成する。
- (3) 審査は別に定めた審査基準に基づいて実施する。

第7 表彰

表彰は、審査委員会の決定に従い、次のとおりとする。

- (1) 個人の部 最優秀賞（1点） 優秀賞（3点）
- (2) 生産集団の部 最優秀賞（1点） 優秀賞（1点）
- (3) 1支店1農場の部 最優秀賞（1点） 優秀賞（2点）
- (4) 特別賞 審査委員会の決定に基づき、表彰することができることとする。
各賞は表彰状の交付と併せ、副賞を授与することができるものとする。

第8 日程

- (1) 推薦期限 平成21年12月20日
- (2) 1次審査 平成22年5月初旬
- (3) 現地調査 平成22年5月上旬（1次審査の上位者について調査を行う）
- (4) 本審査 平成22年7月中旬
- (5) 表彰 麦づくり推進研修会（平成22年7月下旬頃）で行う

第9 その他

その他必要なことは、審査委員会において定めることとする。

○メモ欄 「平成21年播き麦生産振興に向けた取組方針について」

○メモ欄 「水田フル活用による麦作拡大に向けた支援事業について」

○メモ欄 「平成21年播き香川県麦作拡大コンクールについて」
